

題材デザイン FIRST STEP ―中学校美術科 鑑賞編―

1 題材デザインは何のため？

- 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 「指導と評価の一体化」の観点から、題材の指導と評価の計画を作成することが求められています。
- 教師が生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
- 生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。



2 題材デザインの手順

はじめに… 美術科の内容の構成、各学校で作成した年間指導計画で取り扱う内容を確認します。

Step1 育成を目指す資質・能力を明確にし、**題材の目標を設定**します。

Step2 Step1を踏まえ、**題材の評価規準**及び**題材の指導と評価の計画を作成**します。

題材デザインの具体(例) 第3学年 B 鑑賞
題材名 日本と西洋の美術文化 ～それぞれのよさや美しさを味わおう～

はじめに… 美術科の内容の構成、各学校で作成した年間指導計画で取り扱う内容を確認します。

□ 題材と関連する「内容のまとまり」を踏まえ、題材の内容の構成を確認します。

※参考:【中学校美術科における「内容のまとまり」】

絵や彫刻など	「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」	「A表現」(1) ア、(2)、[共通事項]
デザインやエ芸など	「目的や機能などを考えた表現」	「A表現」(1) イ、(2)、[共通事項]
鑑賞	「作品や美術文化などの鑑賞」	「B鑑賞」、[共通事項]

□ 各学校で作成した年間指導計画で取り扱う内容を確認します。

→年間指導計画の作成のポイントについては、佐賀県教育センターWeb「[授業改善サポートQ&A](#)」Q2参照

Step1 育成を目指す資質・能力を明確にし、**題材の目標を設定**します。

□ 育成を目指す資質・能力を明確にします。

・育成を目指す資質・能力は、「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編(以下、学習指導要領解説)」の指導事項を確認します。

- 【第2学年及び第3学年】
B 鑑賞
(1) ア(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。
イ(イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。
- 【共通事項】
(1) ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

思考力、
判断力、
表現力等

知識及び
技能

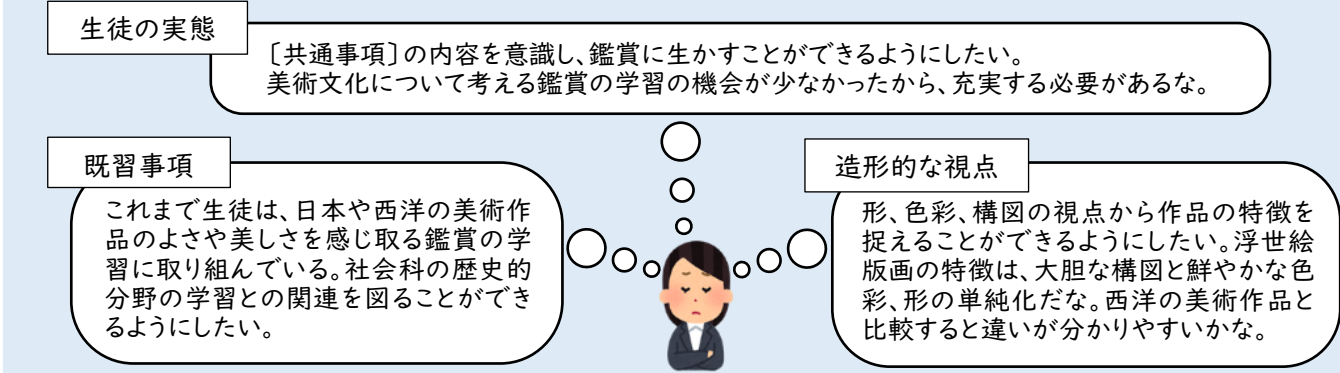
学習指導要領解説 p.101、p.110

「B 鑑賞」の指導に当たっては、学習のねらいに応じて指導事項を組み合わせて題材を設定するなどし、鑑賞に関する学習の充実を図っていくことが大切です。
【共通事項】は、「A 表現」及び「B 鑑賞」の学習において共通に必要な資質・能力であり、造形的な視点を豊かにするために必要な知識に関する項目です。【共通事項】を適切に位置付けましょう。



→【共通事項】の指導のポイントについては、佐賀県教育センターWeb「[授業改善サポートQ&A](#)」Q3参照

□ 育成を目指す資質・能力を基に、生徒の実態、既習事項等を踏まえながら、題材の目標を設定します。



題材の目標

- (1) 形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 [知識及び技能]
- (2) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

→詳しくは、文部科学省[学習指導要領解説 pp.160-161](#)、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」[pp.34-35](#)参照

題材に必然性をもたせ、一人一人の多様な考え方や捉え方を認め合えるような題材にしましょう。
生活や社会の中の美術や美術文化と関連付けできるように検討しましょう。

※「A 表現」の題材を検討する際は、生徒の発達の特性に配慮し、材料や用具、表現方法などが適切かどうか十分に検討しましょう。



→題材を考えたときのポイントについては、佐賀県教育センターWeb「[授業改善サポートQ&A](#)」Q4参照

Step2 Step1を踏まえ、**題材の評価規準**及び**題材の指導と評価の計画を作成**します。

□ 題材の評価規準を作成します。

・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の巻末に示された、「中学校美術科における『内容のまとまりごとの評価規準(例)』」を参考にして作成します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	鑑 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日本や西洋の美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※本題材は独立した鑑賞の題材であるため、**技**、**発**、**態表**の評価を行いません。

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」pp.3-4、「[令和4年度プロジェクト研究 授業改善サポートQ&A Q8](#)」、「[学習評価 FIRST STEP](#)」、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」[巻末資料](#)参照

□ 題材の指導と評価の計画を作成します。

- ・題材の目標及び評価規準を踏まえ、次※^{つぐ}あるいは1単位時間ごとに設定した学習のねらいに沿って、学習活動を構想します。
- ・題材の目標及び評価規準を踏まえ、題材のどの段階で、どの評価規準を通して評価するかを決定します。
- ・どのような評価資料（活動の様子、ワークシート、作品など）を基に評価するか、具体的に考えます。

※1 同じ質の活動のまとまりを「次」と言います。指導と評価においては、題材によって、次ごとに捉えていくこともあれば、1単位時間で捉えていくこともあります。

題材の指導と評価の計画

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習指導プラン](#)」、「[授業実践のまとめ](#)」参照

・題材の目標及び評価規準を踏まえ、次あるいは1単位時間ごとに設定した学習のねらいに沿って、学習活動を構想します。

学習活動を構想する際は、以下の点を踏まえて考えましょう。

学習のねらいを明確にします。

生徒の興味・関心を引き出し、見通しをもつことができるようにするために、題材の導入の工夫をします。

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[授業改善サポートQ&A](#)」Q4参照

目的を明確にした、美術の創造活動※2を伴った学習活動を設定します。

生徒が対象や事象を造形的な視点で捉える学習活動を設定します。

学習内容や学習活動に応じて、学習形態や場の設定などの工夫をします。

学習のねらいに沿った振り返りを行う学習活動を設定します。

※2 美術の創造活動には、生徒一人一人が自分の心情や考えを生き生きとイメージし、それを造形的に具現化する**表現の活動**と、表現されたものや自然の造形などを自分の目や体で直接捉え、よさや美しさなどを主体的に感じ取り、作者の心情や美術文化などについて考えるなどして見方や感じ方を深める**鑑賞の活動**があります。

文部科学省「学習指導要領解説」pp. 9-10

●学習のねらい・学習活動

1. 鑑賞（1時間）

- 日本の美術作品と西洋の美術作品を比較鑑賞し、造形的な視点に着目し、作品の見方や感じ方を深める。
- ・歌川広重「神田明神曙之景」とホッペマ「ミッデルハルニスの並木道」を比較鑑賞し、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。
- ・作品の特徴から感じ取ったことなどをワークシートに記入する。
- ・作品の特徴を基に、それぞれの作品の表現の特質についてグループで話し合い、学級全体で共有する。
- ・共有した表現の特質を基に、それぞれの作品のよさや美しさについて自分の考えをワークシートに記入する。
- ・日本の美術作品の影響を受けたと言われている西洋の美術作品があることについて触れ、次時の学習への見通しをもつ。

2. 鑑賞（1時間）

- 日本の美術作品と日本の美術作品の影響を受けた西洋の美術作品を比較鑑賞し、それぞれの美術文化について考え、見方や感じ方を深める。
- ・歌川広重「神田明神曙之景」とモネ「陽を浴びるポプラ並木」を比較鑑賞し、造形的な視点を動かせながら、表現の相違点や共通点をワークシートに記入する。
- ・ワークシートに記入した内容を基に、西洋の画家が残した日本の美術作品の表現の特質と、影響を受けた西洋の美術作品の表現の特質についてグループで話し合い、学級全体で共有する。
- ・日本の美術作品や西洋の美術作品の表現の特質などから、それぞれの作品のよさや美しさ、美術文化についてワークシートにまとめ、学習を振り返る。

〈授業外：題材が終了後〉

知・技	思	態	評価方法・留意点等
知 ▼	鑑 ▼	態鑑 ▼	知〔共通事項〕内容について理解できているかを見取り、できていない生徒に対しては、奥行きを表し方の違いに着目することができるようにするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】 鑑 表現の特質などから造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な工夫について考えているかなどを見取る。できていない生徒に対して作品のイメージの違いなどから、それぞれのよさや作者の表現の工夫などについて考えることができるようにするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】 態鑑 表現のよさや違いなどを捉えようと主体的に鑑賞をしているかを見取る。できていない生徒に対して、それぞれの作品の描かれているものの違いや描かれている場面、天候などを考えることができるようにするなどの指導を行う。【活動の様子、ワークシート】
			知〔共通事項〕内容について理解できているかを見取り、できていない生徒に対しては、構図や作風に着目することができるようにするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】 鑑 態鑑 それぞれの美術作品の表現の特質などから相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫について考えているかどうかなどと、主体的に鑑賞をしているかなどを見取る。できていない生徒に対して日本の美術作品の影響を受けた西洋の美術作品と比較鑑賞するよう促すことで、それぞれの美術作品の表現の特質や表現の工夫に気付くことができるようにする。【活動の様子、発言の内容、ワークシート】 態鑑 主体的に作品を鑑賞し、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、日本の美術作品と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、表現の意図と工夫やそれぞれの美術文化などについて考えようとしたりしているかどうかを評価する。【活動の様子、ワークシート】
知	鑑	態鑑	知 ワークシートの記述などから、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかどうかを評価する。【ワークシート】 鑑 日本の美術作品と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化などについて考えて、美意識を高め、見方や感じ方を深めているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】

・題材の目標及び評価規準を踏まえ、題材のどの段階で、どの評価規準を通して評価するかを決定します。

・どのような評価資料（活動の様子、ワークシート、作品など）を基に評価するか、具体的に考えます。

生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるために用いる**指導に生かす評価**と、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる**記録に残す評価**について、題材のどの段階で、どの評価規準を通して、どのような評価方法で評価するかを考えます。

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」p.4、p.21、「[学習評価 FIRST STEP](#)」参照

どのような評価資料を基に、おおむね満足できる状況（B）と評価するかを考えたり、努力を要する状況（C）への指導の手立て等を考えたりします。

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習指導プラン](#)」p.3、「[学習評価 FIRST STEP](#)」参照

Plus
+

鑑賞の学習の位置付けについて

資質・能力の育成のために、表現と鑑賞との関連を考え、学習の充実を図ることが大切です。また、鑑賞の学習は十分な授業時数の下で行いましょう。

【表現と鑑賞の関連を考えた題材の例①（全7時）】

鑑賞 表現	第一次 発想や構想（第1時～第3時） ※発想や構想に関する学習を深めるために、第1時に鑑賞の学習活動を位置付けます。	「A表現」(1)、「共通事項」
鑑賞	第二次 制作（第4時～第6時） 第三次 鑑賞（第7時）	「A表現」(2)、「共通事項」 「B鑑賞」、「共通事項」

【表現と鑑賞の関連を考えた題材の例②（全7時）】

鑑賞 表現	第一次 鑑賞（第1時） 第二次 発想や構想（第2時～第4時） 第三次 制作（第5時～第6時）	「B鑑賞」、「共通事項」 「A表現」(1)、「共通事項」 「A表現」(2)、「共通事項」
鑑賞	第四次 鑑賞（第7時）	「B鑑賞」、「共通事項」

【鑑賞を充実させるための題材の例（全2時）】

鑑賞	第一次 鑑賞（第1時） 第二次 鑑賞（第2時）	「B鑑賞」、「共通事項」 「B鑑賞」、「共通事項」
----	----------------------------	------------------------------

※鑑賞の学習は年間指導計画の中に適切に位置付けることが大切です。年間指導計画を作成する段階で、鑑賞と表現との関連を考えて鑑賞の指導を位置付けたり、ねらいに応じて独立した鑑賞を適切に設けたりするなど指導計画を工夫しましょう。

→指導計画の作成については、佐賀県教育センターWeb「[授業改善サポートQ&A](#)」Q2参照